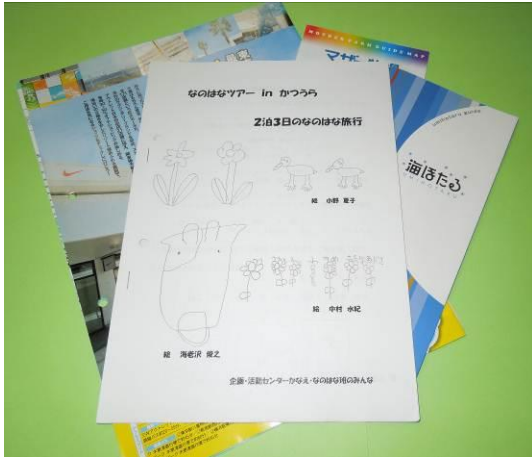


SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2012

夏



みんなで作る旅行 (しおり)



社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036(F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51
042-451-0252
042-451-0262 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722(F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7
042-476-3400(F 兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

理事長の散歩道

特集

ショートステイを利用して
～生活寮「にじ」～

連載 がんばれイリアンソス⑥

～生活寮「そら」の台所からの眺め～

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ①

「3代目の理事長として」
社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

今年の1月から理事長に就任しました。平成9年からのぞみの家の施設長を仰せつかり、15年間施設の運営をスタッフ一同とともに行ってきました。初代の今は亡き石原昂前理事長は、法人立上げからいろいろと支えていただきました。そして、2代目理事長山田耕一郎氏も石原氏の後を引き継いで、現場の取り組みを第1として支えてくれました。残念ながら体調を崩され理事長を退任されることとなりましたが、理事として残っていただきこれからも様々なアドバイスをいただきたいと思っています。その後、わたしで3代目となりませんが、みなさんの支援を糧にがんばっていききたいと思っておりますのでよろしくお願います。

東久留米で30年

わたしは、昭和57(1982)年から東久留米で、障害福祉の仕事をさせていただいています。最初に所属した団体は、「障害児(者)と共に生きる地域づくりをめざす このみ(以下、このみ)」です。全くの任意団体でどこからも補助もなく自分たちで生活費を稼ぎ

ながら活動をしてきました。30年前は、まだ、障害者が地域で暮らすことがあたりまえではありませんでした。いずれば、入所施設や病院で暮らすことになるかと考えていた方が多く、地域で生活するのは、親が支えられるまでという時代でした。それでも、これまで学校にいくことも免除されていた方々でしたが、障害があっても勉強をしたい、させたいという願いが実現されて、昭和54年に障害のある人も教育を受けることが義務制になりました。そして、養護(現、特別支援)学校に通えることで、地域で生活したい、させたいという思いを本人や親、関係者が膨らませていきました。

その思いをうけて「このみ」では、さまざまな活動を行ってきました。

環境を大切に始める前、わたしは、福祉

「このみ」をはじめの前、わたしは、福祉とは全く畑違いを歩んでおり、障害のことについてほとんど理解していませんでした。わたしの障害福祉との出会いは、ボランティアでかかわった「わかくさ学園」です。ただ、乳幼児の障害の子どもたちの療育を行っていた「わかくさ学園」では、ボランティアが直接子どもたちと接することはありませんでした。どちらかというと、キャンプの時に、川遊びが安全にできるよう川底のゴミ拾いや草むしりなど肉体労働が主な仕事でした。また、子どもたちに楽しんでもらいたいと、浅草橋の間屋街に「花火」を買いにいたりしま

した。こうした中で、わたしたちの仕事は、障害のある人を直接支援するだけではなく、環境づくり、地域づくりも同時にやっていくことも必要であると感じました。「環境」を考えること、これは、わたしの障害福祉の視点の大きな柱になっています。

まだまだ、未熟なところは多々ありますが、障害のある人が安心して地域で暮らせる環境をどう作っていくのか、このことを大きな柱にして、法人運営を行っていきたくと思っています。そして、障害のある人だけではなく、われわれを含めたすべての市民が安心できる地域になっていくのではと考えます。

このシリーズは、理事長として枠が設けられていません。文章を書くのは不得手でありませんが、前山田理事長の後を引き継がせていただきます。



ショートステイを利用して生活寮にじ

昨年4月に開所しました、生活寮「にじ」「かぜ」も早いもので1年が経ちました。入居者の様子を見ていますと、少しずつですが、着実に安心できる場所となってきたようにおもいます。

「にじ」「かぜ」では、もう一つ新事業として短期入所（ショートステイ）が同時にスタートしました。利用される経緯は様々ですが、皆さん楽しく過ごされています。

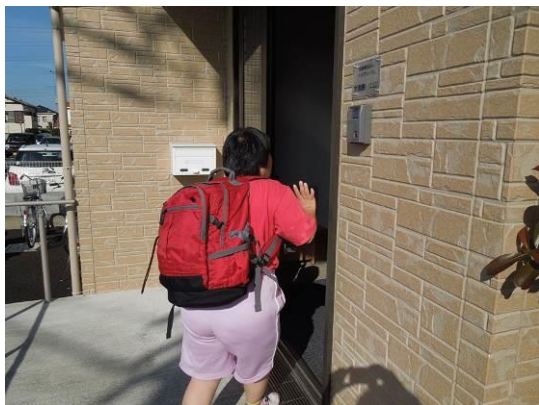
今回は「にじ」のショートステイを利用している二人の生活の様子を紹介したいと思います。



生活寮「にじ」



今日は寮(ショート)の日 “いってきまあす”



ただいま



ハイ、れんらくちょう！

石田光子さん 「なかまの家」

昨年11月に光子さんの母が他界され、父と娘の生活がはじまりました。それまで父親は家族のために仕事、休日は家庭サービス、母親は身の回りのことをして夫婦二人三脚で光子さんに愛情を注いでおられました。一転して、父娘二人の生活を余儀なくされました。

身の回りのことをしてくれていた母親不在への不安、見通しをもって日常生活を送ることへの困惑などから、父親と相談しながら、光子さんが安心して日常生活を送れるようにと生活寮「にじ」のショートステイの利用をはじめました。ショートステイの生活はすぐに慣れ、友達もでき一緒にDVDを観たりしてすごされています。毎日、リュックには、生活寮で購入した本を入れて持ち歩いていて、ショートステイの日を楽しみにしています。

なかまの家 職員

寮での様子

ふうふうひとやすみ



おいしい〜!



・・・まったり



ステキな部屋があるけど、
仲よくなつたおともだちの
お部屋でまったりするのが好き。



今年の11月よりショートステイを利用しています。
帰寮後は、スタッフに連絡帳を渡したあと、寮の外に設置してある自動販売機にコーヒーを買いに行くのが日課です。
その後は他入居者と一緒にDVDを見たり、リビングでカウンターに座りコーヒーを飲んでゆっくり過ごしています。
食事の入浴も待ち切れない位楽しみにして毎日過ごしています。最初のころの入浴は洗髪を嫌がっていましたが、現在は椅子に座り「こう？」と自らシャワーにあたりに行けるようになりました。
笑顔が多くムードメーカーの石田さんは、私たちスタッフが物を落としてしまった時など「わあお！」と言って拾ってくれたり、お手伝いもたくさんしてくれています。
お世話好きな一面もあり、他入居者がトイレから出てくるのを外で待っていてあげたり、一緒に歯磨きなどすることもあります。
今後も石田さんらしく寮でショートステイを出来るように支援していきたいと思っています。

生活寮「にじ」職員

ああ、きょうもおしごとがんばった。



杉村幸さん 「のぞみの家」

「にじ」のサポートに感謝

幸が高校一年生のとき、病院のショートステイで嫌な思いをしてから制度としてのショートステイを利用することがありませんでした。のぞみの家に通所するようになり、あるとき「うみ」に泊めていただきました。スタッフも利用者の方もよく知っていますからでしょう、初めての場所でも宿泊を楽しめたと聞き、それまでのショートではなかった安心感を味わいました。こんな形が理想だと思っていたので生活寮「にじ」・「かぜ」の計画にショートステイが含まれていると知り大いに期待したものです。



リビングでゆっくり

昨年、「にじ」・「かぜ」がオープンし、間もなくショートステイも利用できるようになると早速宿泊体験をお願いしました。広いお風呂は気持ちよく、寮の利用者やスタッフの方たちのにぎやかさも楽しく、幸はすっかりショートが気に入ったようでした。あれから一年、何回も利用して今では「にじ」に宿泊する日は朝から楽しみにしているようです。私が突然の腰痛で動けなくなったり、細やかな気遣いで受け入れてくださったとき、行きたいけれど今までならどうせ無理とあきらめていたことがショートのおかげで実現したりもしました。そんなときも、幸は慣れたと



ティータイム

ころで楽しく過ごしているだろうという大きな安心感がありました。これは何よりもありがたいことだと思っています。これからは時々ショートを利用する体験を重ねて、何年後かには親元を離れて寮生活ができたらと希望しています。イリアンソスには利用者のニーズを汲み取った長期計画をぜひお願いいたします。

杉村幸(母)



とーってもリラックス。

杉村幸さんと生活寮

生活寮にじが開寮してからの記念すべき第一号のショートステイ利用をされた杉村幸さん。スタッフの不安をよそにとってもやる気な幸さんに逆に温かく迎え入れてもらえたよ
うな気がします。

帰寮しまずは新しいお部屋を見てニッコリ、男性寮に遊びに行きさらにニッコリ、とっても目をキラキラさせて色々な場所や人を眺めていました。他の入居者さんと一緒にア



「にじ」にも慣れて笑顔も多くなりました



食事の時間「おいしい！」

ニメ番組を見たり、スタッフの話聞きながら笑ったり一日中とっても笑顔が多く寮生活を楽しんでいきます。

大好きな入浴タイムも最近では力も抜けリラックスした状態で体を洗い、湯船の中でバシャバシャとお湯で遊んで過ごします。ゆつくりと湯船につかることを楽しみにお風呂の順番を今か今かと待ちわびてスタンバイをしています。

就寝されてからは、居室で横になりながらテレビをゆつくり見る時間を作っています。イケメンくんが出ているドラマや時にはバラエティーなど、ベッドからゆきさんが顔を乗

り出してテレビを見る大切なくつろぎタイムです。
1か月に何回かの生活寮の利用なので、幸さんにとって旅行気分のようなみんなでワイワイと楽しめる場所になっているのではないかと感じます。これからは幸さんにとって楽しく安らげる場所になれるよう丁寧に関わっていきたいと思います。

生活寮「にじ」職員



広いリビング。仲間の様子もよく見えます。



ごはん、まだあ？

私が生活寮のまかないを始めたのが、2004年の開寮してすぐですから、丸8年、今年で9年目になります。やっぱり早いんですね、あつという間です。一人で20人近くの食事を作るなんて初めてでしたから、分量や味付け、硬さの調節など、本当に全てが手探りでした。

台所の中から皆さんの様子をながめていると、いろいろと気づくこともありますね。始めはなかなか一人で食べられなかった入居者さんも今では一人でパクパク食べるようになったり、食べる順番がある人、好きな物から食べる人、苦手な食べ物がある人。みんなそれぞれ個性があつて見て楽しいですよ。それに最近では「ゴハンまだあ？」なんて覗き込みに来たりして。今までなかったことですから、うれしいですね。そしてみんながきれいに食べてくれるので、何だか自分の家で食事を作るより張り合いがあつたりして(笑)。



時には職員も手伝います

がんばれ イリアンソス！シリーズ⑥
「8年間を振り返って
生活寮そらの台所からの眺め」
生活寮 うみそら まかないスタッフ
上別府 晴美

みんなテーブルを囲むのもいいのかな？とも思います。やっぱり誰か一人でもお休みしていると寂しくて。入居者さんも気にしているみたいで、みんなにとつて、ここが家・家族みたいな感じを持つてくれているのかしら？そういう感じになれたらいいなあ、つて思います。

開寮当初から比べて入居者さんが落ち着いたと思いますけど、ただ寮になれたということだけではなく、スタッフさんもある程度固定してきて、安心できているんじゃないかしら。やっぱり入れ違いが多いと不安になりますよね。

これからの季節、台所の中の暑さもきびしくなってきました。これだけは今もなれないですね(笑)業務用のコンロなので火力が大きいですし、換気もいまいちです。それから食中毒も怖いので気をつけていかないと。これからもみんなが笑顔で食事を食べられるようにがんばって行きたいと思います。



いただきます～す

完成 カレーうどんがメインです

法人行事

『イリアンソス大バザー』

イリアンソス後援会 掘り出し物あり、各種模擬店あり

◎日程：10月7日(日) ※雨天翌日順延10月8日(月)

◎場所：滝山団地センター前広場

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程：9月20日(木) 27日(木)

10月11日(木) 25日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

ご寄付をいただきました。

(6月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様
板垣 祝夫様

ありがとうございます。

表紙の写真

(左) 活動センターかなえ「なのはなグループ」2泊3日旅行をみんな楽しみにしています。自治会で行き先や係を決めます。しおりもみんなで楽しみながらつくっています。

(右) のぞみの家「チャレンジ班」今年の3月に伊東に行きました。9名で担当を決めてしおりを作ります。個性溢れる賑やかなしおりとなりました。※写真はしおりの表紙

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

池田苗生子・磯部光孝・金野博志・多田由美
田中沙樹・矢島正樹・吉田遊佑



定価 100円

編集後記

7月27日に開幕したロンドンオリンピック。「いけ!」「よし!」などと声を上げて応援してしまいます。ふと、時計に目をやると恐ろしい時間になっていることも度々。現実に戻りながらの就寝を向かえています。オリンピックやサッカーのワールドカップなどの国際大会は時差があることが更に特別な感じにさせてくれます。「見た?」次の日、眠い目をこすりながら言うのも楽しかったです。勝手に盛り上がり、一緒に頑張っているような気持ちになつてしまいます。

夏バテしないように、もう少し応援しようかなと...

のぞみの家 吉田 遊佑